

## 分科会の進め方

### 第 1 分科会（2 階 ディスカバリスクエア A）

「授業／教員／大学教育との連携 ～図書館（員）はラーニングコモンズ  
による学生支援を通して教育にどのように関わるのか（具体例を通して）」

座長：村田勝俊（金沢大学）

#### 1. 事例報告

以下について各館から実施状況を報告する。

- ・授業で LC を利用している例
  - ・セミナー・講習会等授業外で LC を利用している例
  - ・サポートデスク等人的な支援スタッフを LC に設置している例
  - ・その他職員、教員等が関与する LC での支援例
- など

#### 2. 質疑応答

事例報告に関して自由に

#### 3. 意見交換

- ・図書館と教員または教育組織との連携方策
  - ・その他 LC での人的支援，教育への関わり方
- など

第 2 分科会（5 階 大会議室）

「ラーニングコモンズの稼動状況をどのような指標でどう評価すべきか」

座長：磯谷峰夫（大阪大学）

- ラーニングコモンズを作ったあとの工程として、実際どのように使われているかを計量化したり客観化して、対外的に示す、あるいは運用方針に生かしたりしている図書館はどのくらいあるのでしょうか。
- 第 2 分科会では初めに、利用者アンケートや統計を実施された図書館の方にはそういった経験を、未実施の場合は計画や予定について語ってもらいます。（資料はあってもなくても構いません）
- そのあと、参加者で意見交換をし、ラーニングコモンズの利用状況を把握する手法やその結果に対する評価について共に考え、各図書館が実施する際の参考となるようにしたいと思います。
- 学習支援活動の実践事例に加えて、参加型の催しとなりますが、みなさんの積極性を期待しています。

第 3 分科会（2 階 ビブリオサロン）

「利用（来館者数，学習相談件数等）増のためのアイデア・事例交換」

座長：渡邊由紀子（九州大学）

1. 事例報告

各館から，以下について報告する。

- ・図書館の利用状況（来館者数，学習相談件数等）
- ・利用増のための実践事例やアイデア

2. 意見交換

「どうすれば利用を増やすことができるのか？」

事例報告を参考に議論する。

3. 振り返り

- ・本日の情報交換で得た気づきを分かち合う。
- ・各館での今後の活動につなげる活用法を考える。

第 4 分科会（2 階 ディスカバリスクエア B）

「学生との協働企画の引き出し方」

座長：長谷川順子（新潟大学）

1. 事例報告 20 分

- ・各館の事例を 1 つ以上報告する。  
実践例がない場合は、想定した内容を報告する。
- ・報告内容は「どんな学生とどのようなきっかけで何を企画し、参加者の反応はどうだったか。」でまとめる。

2. 意見交換 20 分

- ・事例報告から下記の項目について意見交換する  
協働企画のあり方  
学生と職員の役割  
企画の成功例

3. まとめ 20 分

- ・企画を引き出すためのアイデアとして、以下の観点から考える  
学生へのアプローチ  
学生活動のひとつ  
、研究学習成果の観点

第 5 分科会（5 階 多目的室）

「学生がどのように学習しているかを知るには？ 学生が学習しやすい仕掛けを作るには？～北米大学図書館での調査から～（平成 26 年度国立大学図書館協会海外派遣事業報告）」

講師：嶋田晋（筑波大学）、谷奈穂（千葉大学）

座長：細川聖二（筑波大学）

1) 海外出張報告（40 分）

- ・講師 2 名から報告
- ・発表スライドは事前に分科会参加者に送付する

2) 質疑応答・意見交換（20 分）

- ・事前にスライドとともに質問票を送付する
- ・質問票は記入して持参いただき、当日、受付にて回収する
- ・提出された質問票に基づき、質疑応答・意見交換を行う（質問者にも一言、質問の趣旨や背景について座長から発言を求める）